

第2回ヴォルフスブルク国際青年協議会

豊橋技術科学大学 2年 鈴木 日奈子

私は、ヴォルフスブルク国際青年協議会に参加し、いろいろな人たちの意見や価値観を知ることができました。今回この会議に参加したのは全部で7都市です。彼らからはたくさんのことを学ばせていただきました。会議では、主にSDGsについて話し合いました。現在の社会問題に対して色々な意見交換がされ、お互いの都市での対策も聞けてとても興味深かったです。また、現地の方々が用意してくださったワークショップでも具体的にどのような活動をしているのかを紹介してくれました。



会議中の写真

中でも印象に残っている会議でのトピックは「多様性」です。ドイツには日本よりも移民が多く、LGBTQ+に関しても関心が高いです。今回の会議の参加者にも自分はLGBTQ+だと教えてくれる人たちがいました。そんな彼らの話を聞き、やはりまだ生きづらさを感じる場面が多々あると教えてくれました。このトピックの担当の先生はヴォルフスブルクのフットボールクラブの関係者でした。彼は、これまで女性のフットボールクラブを立ち上げたり、50歳以上の方々のためのクラブを作ったりと、いろいろな人々がサッカーを楽しむ機会を与えてきました。彼は今後も多様性を大事にした町づくりをしていきたいと言っておりました。私たちはLGBTQ+のことをもっと理解し、彼らの話を聞きながらいろんな視点を持つことが大事だと思いました。そして、行動に移すこと。今回の会議でほとんど全てのトピックで「行動に移す」ことの大切さを言っていました。行動しなければ何も変わらない。行動の中でもすぐにできるのはやはり友人や家族に話すことです。私も今回の会議で話した内容をできるだけ多くの方々に伝えていければと思います。

ヴォルフスブルクでは、会議だけではなく、ユースセンターを訪問したり、公共施設にも行ったりしました。ユースセンターでは、2人の子と友達になりました。彼らは日本について教えて欲しいと言ってくれ、スマートフォンで写真や動画を見せながら日本の面白いところや好きなどころを紹介しました。将

来は日本に遊びにきてくれることを約束してくれました。忘れられない思い出です。

また、ヴォルフスブルク市の要であるフォルクスワーゲンの工場も訪問しました。工場見学では、大きなオープンカーに乗って工場内をガイドさんの案内付きで回りました。工場はとても大きく、廊下には至る所に自転車が置いてありました。もう一つの公共施設は



ユースセンターにて

科学館です。科学館では、体験型のブースがたくさん設置されており、アトラクションのようで、楽しかったです。実際にその科学的現象を体験できるのはとても魅力的でした。

ヴォルフスブルク市最終日は、キャンプ場へ行き市長に挨拶をしました。キャンプ場にはいろんなワークショップがあり、色々な団体が来ていました。市長挨拶では、会議へ招待していただいたことや、準備していただいた方々への感謝を述べました。

今回のヴォルフスブルク青年会議では、新しい視点や社会の問題点を改めて認識しました。今後の社会を担う私たちは、国同士の協力が不可欠です。よって、今回この場でいろんな国籍の人や思想を持った人たちと語り合えて本当によかったです。彼らとは活動を通していろんな違いや考え方に触れることができました。また、とても良い友達もできました。彼女とは今年の夏会う約束をしています。日本に帰ってきてからも何度かビデオ通話やチャットで話し、さらに仲良くなりました。

今後、世界で何が起こるか分かりませんが、この青年会議のように、国同士で交流し、協力し合えば解決できることは多いと思います。これからも交流を絶やさず、問題について話し合うことが大事です。そのためにも、このような会議を今後も続けていく必要があります。今回、参加することができて本当によかったです。ありがとうございました。